

# Pictet Fund Watch ピクテ・ファンド・ウォッチ

## ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(隔月分配型)

### グロイン隔月 | 運用の振り返りと市場のポイント

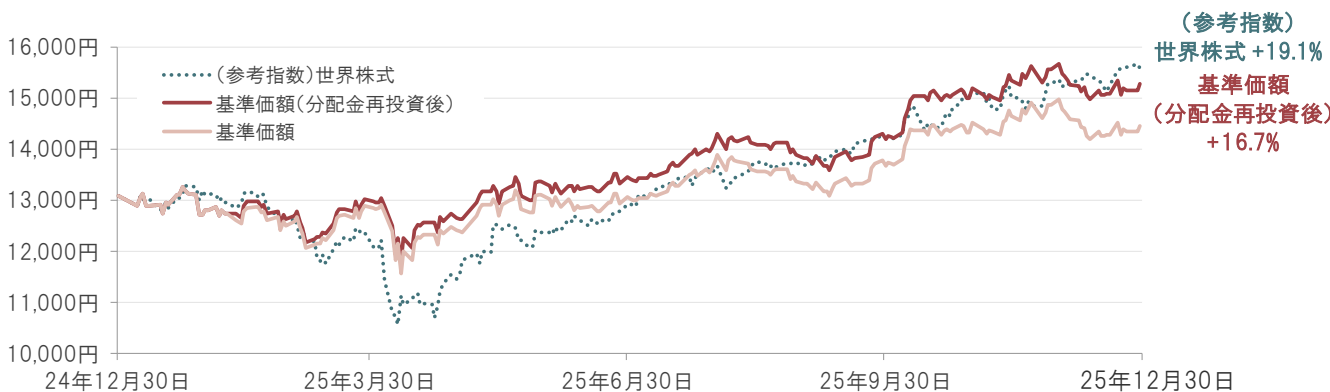
#### POINT

- 2025年10月～12月のピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(隔月分配型)(以下、当ファンド)の基準価額は、電力需要の高まりなどを背景とした良好な業績見通しへの注目などから上昇
- AI(人工知能)の普及や電化の進展による電力需要増、発電コストが低いエネルギーへの移行などによる設備投資拡大などが世界の公益業界の成長ドライバーになるとみる

#### ■ 当ファンドのパフォーマンス

##### 当ファンドのパフォーマンス推移(過去1年間)

日次、期間: 2024年12月30日～2025年12月30日



#### 市場環境と運用状況

市場環境と運用状況	
2025年1月～3月 当ファンド: -0.9% 参考指数: -7.7%	世界の株式市場は、2月半ば以降、米国の景気減速懸念の高まりや、米トランプ政権による関税政策への警戒感などから、投資家のリスク回避の動きが強まり、下落しました。こうしたなか、世界公益株式は、ディフェンシブ性(業績が景気に左右されにくい特性)や良好な業績見通しへの注目などから、相対的に底堅い推移となり、当ファンドの基準価額も小幅な下落にとどまりました。
2025年4月～6月 当ファンド: +3.7% 参考指数: +6.9%	世界の株式市場は、米トランプ政権による関税政策の発表などから一時大きく調整する場面もありましたが、その後は米国の関税をめぐる交渉の進展期待や主要企業の好調な決算を受けて、当該期間を通して上昇となりました。こうしたなか、世界公益株式も電力需要の高まりなどを背景とした良好な業績見通しへの注目などから上昇となり、当ファンドの基準価額も上昇となりました。
2025年7月～9月 当ファンド: +5.6% 参考指数: +10.2%	世界の株式市場は、堅調な2025年4-6月期の企業業績、米国の利下げへの期待の高まりやAI(人工知能)関連の大型投資の発表などが好感されたことなどからハイテク銘柄を中心に上昇基調が続き、当該期間を通して上昇となりました。こうしたなか、世界公益株式も電力需要の高まりなどを背景とした良好な業績見通しへの注目などから上昇となり、当ファンドの基準価額も上昇となりました。
2025年10月～12月 当ファンド: +7.5% 参考指数: +9.6%	世界の株式市場は、これまでのテクノロジー銘柄を中心とした株価上昇を受けた高いバリュエーション(投資価値評価)水準への警戒感などから下落する局面がありましたが、AI(人工知能)関連の大型投資案件の発表や米国の追加利下げなどが好感され、当該期間は上昇となりました。こうしたなか、世界公益株式も電力需要の高まりを背景とした良好な業績見通しなどから上昇となり、当ファンドの基準価額も上昇となりました。

※注釈等は次頁参照 ※当資料における実績は、税金控除前であり、実際の投資者利回りとは異なります。分配金は一部またはすべてが元本の一部払戻しに相当する場合があります。また、運用状況によっては、分配金額が変わる場合あるいは分配金が支払われない場合があります。当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

## ■ パフォーマンスの変動要因

### 【2025年1月～2025年12月(過去1年間)】

#### パフォーマンスへのプラス寄与度が大きかった主な銘柄

##### SSE(英国、電力)

2025年通期の利益見通しが好感されたことや、送配電網への新たな設備投資計画を発表したことなどから、株価が上昇

##### イベルドロウラ(スペイン、電力)

設備投資の拡大などを背景に2025年通期の利益見通しを上方修正したことや、英国事業の送電規制枠組みや設備投資計画についての承認などから、株価が上昇

##### イタリア電力公社(イタリア、電力)

2025年3月前半に発表した決算において前年比で増益となったことや、2025年1-3月期の決算において主に欧州や中南米地域の事業拡大を背景に前年同期比で増収・増益を発表したことなどから、株価は堅調に推移。また、電力需要の増加や長期金利の低下なども追い風となり、株価は上昇

#### パフォーマンスへのマイナス寄与度が大きかった主な銘柄

##### PG&E(米国、電力)

2025年1月に発生したカリフォルニア州の山火事を背景に、同州の山火事基金への新たな資金拠出が求められることへの懸念や、山火事関連の規制見直しの行方が不透明であることなどが、株価下落の要因

##### 米国の電力銘柄

2025年1月に発生したカリフォルニア州の山火事による影響が懸念され、株価が下落

### 【2025年10月～2025年12月(過去3ヵ月)】

#### パフォーマンスへのプラス寄与度が大きかった主な銘柄

##### SSE(英国、電力)

送配電網への新たな設備投資計画を発表したことなどから、株価が大きく上昇

##### エンジー(フランス、総合公益事業)

電力需給のひっ迫による電力価格の上昇、米メタ社との電力供給契約締結の発表、および業績予想の上方修正などから、株価が上昇

##### イベルドロウラ(スペイン、電力)

設備投資の拡大などを背景に2025年通期の利益見通しを上方修正したことや、英国事業の送電規制枠組みや設備投資計画についての承認などから、株価が上昇

#### パフォーマンスへのマイナス寄与度が大きかった主な銘柄

##### サザン(米国、電力)

管轄地域であるジョージア州の規制当局の体制変更による影響が懸念されたことなどが、株価下落の要因

##### エクセル・エナジー(米国、電力)

ジョージア州の規制当局の体制変更や2024年に発生したテキサス州の山火事の賠償責任による業績への影響について不確実性が高まったことなどが株価下落の要因

#### 【前頁の注釈等】

グロイン隔月:ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(隔月分配型)

※設定来のパフォーマンスは5頁に記載 ※基準価額は、実質的な信託報酬等控除後。基準価額(分配金再投資後)は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。 ※基準価額は1万口当たりで表示しています。 ※分配金再投資後の基準価額の計算は、分配金にかかる税金とファンドへの再投資にかかる手数料を考慮していません。 ※参考指数として世界株式(MSCI世界株価指数、税引後配当込み、円換算、1営業日前ベース)を使用しています。なお、当参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。 ※(参考指数)世界株式および基準価額(分配金再投資後)は2024年12月30日=13,089円(同日のグロイン隔月の基準価額)として指数化 ※コメント中に記載の世界の株式市場:MSCI世界株価指数、世界公益株式:MSCI世界公益株価指数 ※当ファンドの騰落率はすべて税引前です。出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※当資料内で記載の個別銘柄・企業については、特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものではありません。

当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

## ■ 2025年10月～12月(過去3ヵ月)の投資行動

### 購入、組入比率引き上げを行った主な銘柄

#### ネクステラ・エナジー(米国、電力)

米トランプ政権の風力発電事業に対する否定的な姿勢を受けて、組入比率を引き下げていたが、米国内の電力需要の増加に対応するためにあらゆる発電能力の増強が必要であるとの見方が広がるなか、見通しは改善しているとみて、ネクステラ・エナジーの株式を買い増し

#### エンジー(フランス、総合公益事業)

フランスの政治的不確実性の高まりによる株価下落を好機とみて、エンジーの株式を買い増し

### 売却、組入比率引き下げを行った主な銘柄

#### SSE(英国、電力)

株価が上昇したため一部売却し、利益を確定

#### 米国の電力銘柄

利益確定のため米国の原子力発電に注力する銘柄の組入比率を引き下げ

## ■ 今後の見通し、運用方針

米トランプ政権の関税政策に関する協議に進展がみられたことなどから、世界経済に対する不確実性は一定程度後退したものの、地政学リスクが高まっており引き続き注視が必要と考えます。

市場の先行きが不透明ななかでは、公益企業の、1)業績が景気に左右されにくいこと、2)米国の関税引き上げの影響を直接受けにくい非製造業でかつ、関税引き上げで予想される物価上昇に強く、また、米国への製造拠点の移転は電力需要の増加要因にもなること、3)株価が相対的に割安な水準となっていることなどの点が、注目されるとみています。

## ■ 中長期保有に当たってのポイント

電化の進展やAI(人工知能)の普及に伴うデータセンターの増設などによる電力需要増加、建設コストが低いクリーンエネルギーへのシフトなどによる設備投資拡大などが世界の公益業界の成長ドライバーになるとの当社の見方に変更はありません。

米国の規制下の公益事業は、一定の利益を確保したうえで、税金や燃料費、資金調達コストなどの増加を料金に転嫁できる仕組みを有していることから、政策如何による利益への中長期的なマイナスの影響は少ないとみています。こうしたことから米国の規制下事業の比率の高い銘柄は、経済の先行きが不透明ななかではより注目すべきであるとみており、組入れを高位にしています。

(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

※当資料内で記載の個別銘柄・企業については、特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向等を示唆するものではありません。

当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

(以下、足元の注目すべきトピックについて解説します。)

## ■ 今後数十年にわたる、公益業界の成長トレンドは揺るぎないとみる

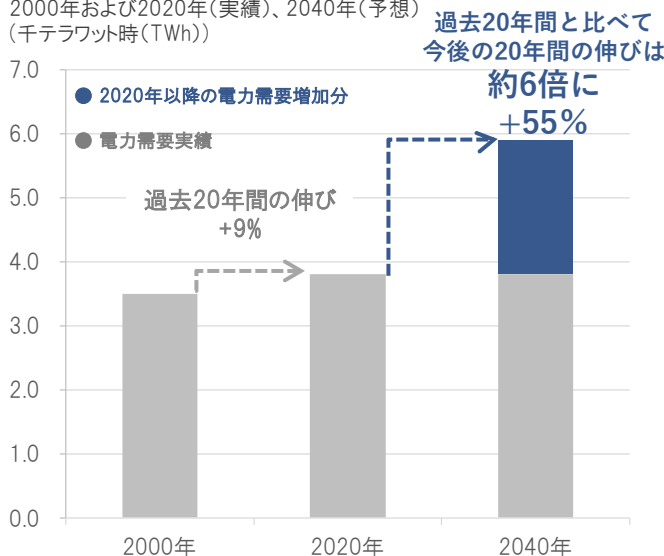
世界の公益業界は、経済の電化やAI(人工知能)普及による電力需要増加や、発電コストが低く建設期間が短いクリーンエネルギーへのシフトなどがドライバーとなり、今後数十年にわたり、成長トレンドが継続すると予想されます。これらのトレンドは、エネルギー政策の影響を受けにくいとみられるため、特に規制下の公益企業は業績見通しの確実性が高く、長期にわたる収益と配当の安定した成長が予想されます。

## ■ 世界の電力需要はデータセンターだけでなく様々な分野における電化の進展などにより大幅な増加が予想される

電気自動車の普及、電化の進展、エアコンの普及、AI普及によるデータセンターの増加などによる電力需要増加の加速を背景に、米国の電力需要の伸びは、過去20年間(2000年～2020年)の+9%から今後20年間(2020年～2040年)は+55%と、約6倍になると予想されています。

### 米国の電力需要実績と予想

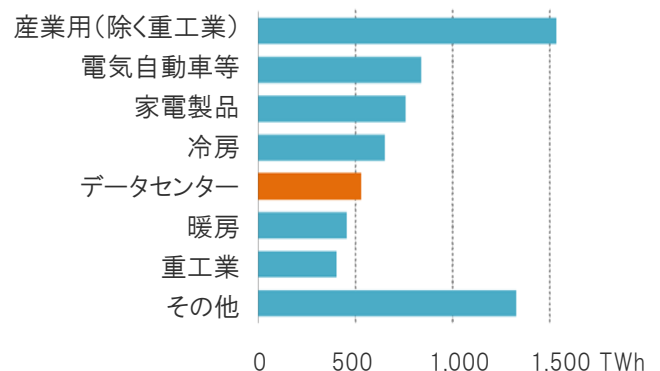
2000年および2020年(実績)、2040年(予想)  
(千テラワット時(TWh))



出所: 米国の電力需要の予想はIHS予想、ネクステラ・エナジー(米国、電力)の会社資料を基にピクテ・ジャパン作成 ※無断複写・転載を禁じます。

### 世界の分野別電力需要増加予想の内訳

期間: 2024年～2030年



注釈: 2024年実績値に対する2030年までの電力需要増加予想  
出所: 国際エネルギー機関(IEA)(<https://www.iea.org/reports/energy-and-ai/energy-demand-from-ai>) IEA.Licence: CC BY 4.0のデータを基にピクテ・ジャパン作成

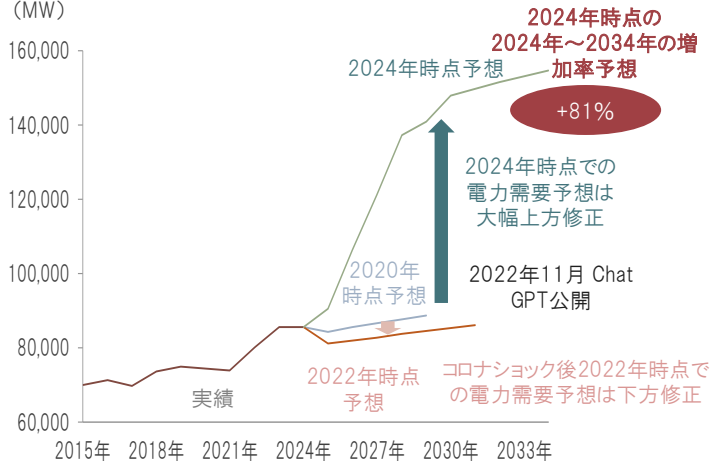


## ■ 電力需要の増加が加速～けん引役の一つはAI普及によるデータセンターの増加

電力需要増加のけん引役の一つは、AIの普及などによるデータセンターの増加です。米国のテキサス州などデータセンターが集積する地域では、2022年11月のChatGPT公開以降、電力需要の長期の予想に大幅な上方修正の傾向がみられます。世界のデータセンター全体の電力需要も年率+16%(2023年～2030年)と大幅な増加が予想されています。

### テキサス州を含む規制地域(ERCOT)の最大電力量

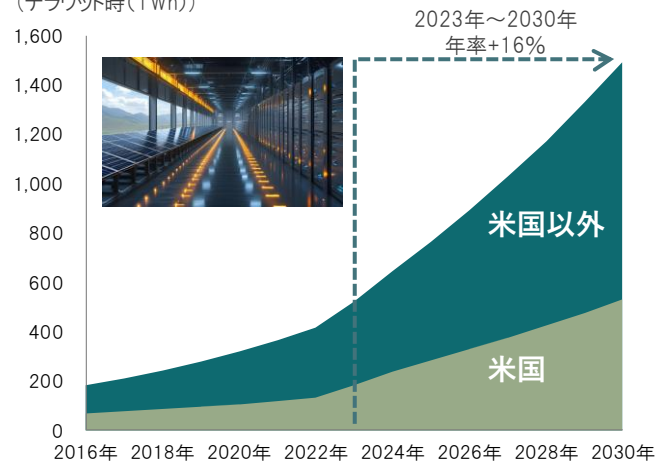
年次、期間:2015年～2024年(実績)、2025年～2034年(予想)  
(MW)



出所:会社資料(コンステレーション・エナジー(電力予想はERCOTのデータによる))、ピクテ・アセット・マネジメント等のデータを基にピクテ・ジャパン作成

### 世界のデータセンターの電力需要

年次、期間:2016年～2023年推定、2024年～2030年予想  
(テラワット時(TWh))

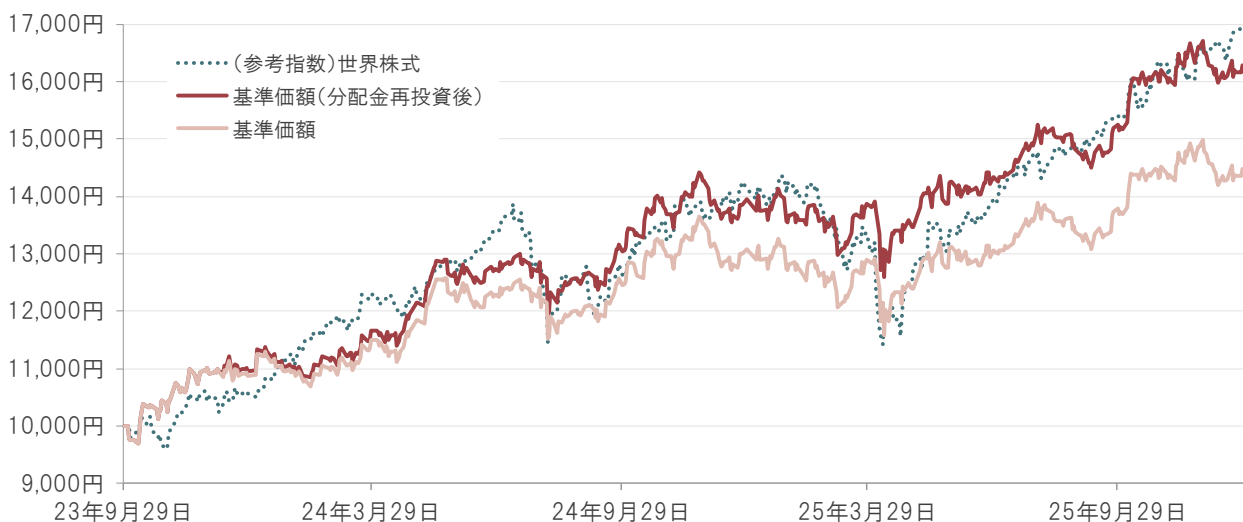


※写真はイメージです ※データはジェフリーズによる推定値  
出所:ジェフリーズのデータを基にピクテ・ジャパン作成  
※無断複写・転載を禁じます。

## (参考)当ファンドの設定来のパフォーマンス推移

日次、期間:設定日(2023年9月29日)～2025年12月30日

(参考指数)世界株式は2023年9月29日=10,000円として指数化



※基準価額は、実質的な信託報酬等控除後。基準価額(分配金再投資後)は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。※基準価額は1万口当たりで表示しています。※分配金再投資後の基準価額の計算は、分配金にかかる税金とファンドへの再投資にかかる手数料を考慮していません。※参考指数として世界株式(MSCI世界株価指数、税引後配当込み、円換算、1営業日前ベース)を使用しています。なお、当参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。

出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

※当資料における実績は、税金控除前であり、実際の投資者利回りとは異なります。分配金は一部またはすべてが元本の一部払戻しに相当する場合があります。また、運用状況によっては、分配金額が変わる場合あるいは分配金が支払われない場合があります。

※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

## 投資リスク

### [基準価額の変動要因]

- ファンドは、実質的に株式等に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動等（外国証券には為替変動リスクもあります。）により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆様が投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様にご帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

株式投資リスク (価格変動リスク、 信用リスク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドは、実質的に株式に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。</li> <li>●株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。</li> </ul>
為替変動リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。</li> <li>●円高局面は基準価額の下落要因、円安局面は基準価額の上昇要因となります。</li> </ul>

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

### [その他の留意点]

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

## ファンドの特色

＜詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください＞

- 主に世界の高配当利回りの公益株に投資します
- 特定の銘柄や国に集中せず、分散投資します
- 2ヵ月に1回決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います

- 毎年 2 月、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月の各 10 日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。
  - －分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
  - －収益分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。
  - －留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※投資にあたっては、以下の投資信託証券への投資を通じて行います。

○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド・グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド（当資料において「グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド」という場合があります）

○ピクテ・ショートターム・マネー・マーケット JPY（当資料において「ショートターム MMF JPY」という場合があります）

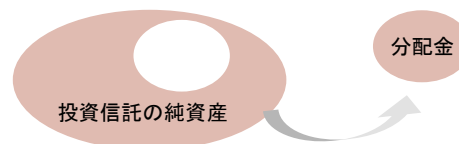
※実質組入外貨建資産は、原則として為替ヘッジを行いません。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## [収益分配金に関する留意事項]

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

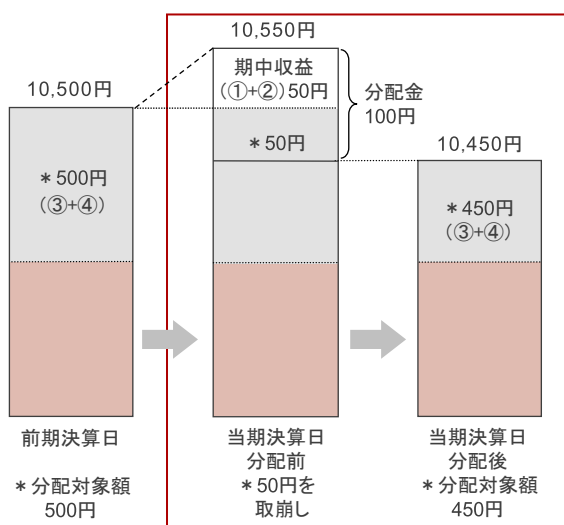
### 投資信託で分配金が支払われるイメージ



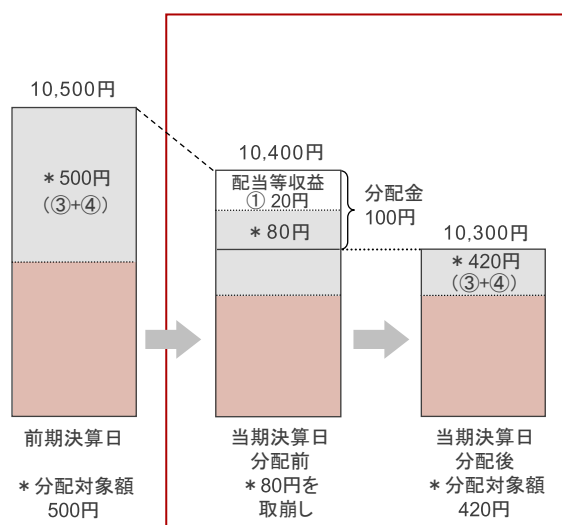
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算日から基準価額が下落した場合

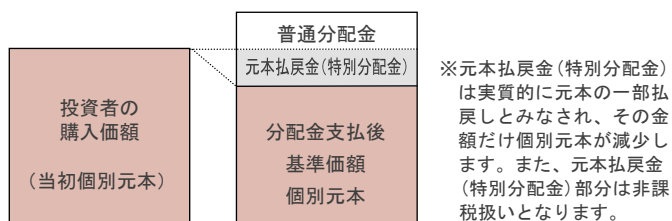


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

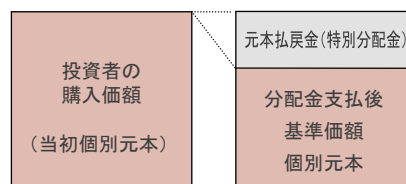
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金) 額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、「手続・手数料等」の「税金」をご参照ください。



## 手続・手数料等

## [お申込みメモ]

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
購入・換金の 申込不可日	ルクセンブルグの銀行、ロンドンの銀行またはニューヨーク証券取引所の休業日においては、購入・換金のお申込みはできません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2023年9月29日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎年2月、4月、6月、8月、10月、12月の各10日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	2ヵ月に1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

## [ファンドの費用]

投資者が直接的に負担する費用			
購入時手数料	3.85%(税抜 3.5%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。 (詳しくは、販売会社にてご確認ください。)		
信託財産留保額	ありません。		
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
運用管理費用 (信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年 1.21%(税抜 1.1%)の率を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 【運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)】		
	委託会社	販売会社	受託会社
	年率 0.35%	年率 0.7%	年率 0.05%
投資対象 とする 投資信託証券	グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド		純資産総額の年率 0.6%
	ショートターム MMF JPY		純資産総額の年率 0.3%(上限)
	(上記の報酬率等は、今後変更となる場合があります。)		
実質的な負担	最大年率 1.81%(税抜 1.7%)程度 (この値はあくまでも目安であり、ファンドの実際の投資信託証券の組入状況により変動します。)		
その他の費用・ 手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率 0.055%(税抜 0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。 )は、そのつど信託財産から支払われます。投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われます。		

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## [税金]

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して 20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して 20.315%

※少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。  
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※上記は、当資料発行日現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。





## 委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図を行う者) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会	【ホームページ・携帯サイト(基準価額)】 <a href="https://www.pictet.co.jp">https://www.pictet.co.jp</a>
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理を行う者) 〈再信託受託会社: 株式会社日本カストディ銀行〉	
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払いを行う者)	

## 販売会社一覧

### 投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
株式会社SBI証券 (注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第7号	○			
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			

(注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。